2010/11/12

柏の景気情報（平成22年10月分）

柏　商　工　会　議　所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011　千葉県柏市東上町7－18
ＴＥＬ ： 04－7162－3305
ＦＡＸ ： 04－7162－3323
ＵＲＬ ： http://www.kashiwa-cci.or.jp
E-mail ： info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成22年10月分）

○ 調査期間　：　平成22年10月20日　～　10月25日

○ 調査対象　：　柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	76	71.0%
建設	19	15	78.9%
製造	23	16	69.6%
卸・小売	43	30	69.8%
サービス	22	15	68.2%

○ 調査方法と調査表　：　下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算（経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B　業界内のトピック（記述式）

DI値 ＝ 1 増加他の回答割合 － 3 減少他の回答割合

※ DI値（景況判断指数）について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0（ゼロ）を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI≧50	50＞DI≧25	25＞DI≧0	0＞DI≧▲25	▲25＞DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成22年10月の調査結果のポイント】

≪業況DIわずかに回復　全国と同水準≫

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.7(前月水準▲44.7)となり、マイナス幅が△4.0ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲56.6(同▲72.0)、製造業±0.0(同▲6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲40.0(同▲33.3)、サービス業▲53.3(同▲50.0)である。

【建設業】からは、「公共工事入札では最低制限価格や低入札価格で応札する業者がいるため、工事費を積算して会社経営を含めた価格で入札しても落札できない状態が続いている」(土木工事業)、「このまま年を越せるのでしょうか」(土木工事業)、「売上高はわずかに増加。しかし仕入以外の経費が多く利益が圧迫されている。相変らず予算も厳しい」(電気工事業)などの声が寄せられた。

【製造業】からは、「低価格がますます進行するであろうと考えられる」(一般産業用機械設備製造業)、「依然として景気が改善してきているという実感が持てない。良い話も聞こえてこない」(その他の機械・同部分品製造業)という意見が寄せられた

【卸小売業】からは、「引く業況の悪化に伴い、給与削減する会社が出てきました」(食料・飲料卸売業)、「夏の猛暑の影響から野菜果実ともに入荷が減少し高値が続いています。今後は気候が平均並みとなり野菜の成長が進むことから入荷が増え安定的価格に落ち着く傾向もあります。全体的市場情勢は売上減少の厳しい状況です」(食料・飲料卸売業)、「たばこ税値上げの前の買いおき需要があり売り上げ上昇したが、その後はその反動で減少している」(その他の各種商品小売業)、といった内容のコメントが上がってきた。

◎秋冬物商戦

各業種から、「近隣に大型店がオープンするため注意している。季節感がなく商品の売り込みが難しい。客単価も低い。冬物の売れ行きはすべりだし好調」(その他の飲食料品小売業)、「商品が秋冬物に変わったが、商品単価の下落傾向は収まらず、低価格商品しか売れていない」(その他の各種商品小売業)、「10月度は先月後半からようやく秋らしい気温になったことから月初は秋冬商材が本格的に動き出したことから売り上げ高は前年を上回る推移となった。また、先月29日から開催した秋のグルメフェアで飲食店が客単価をあげ、全体の底上げにつながった。中旬気温が低下してからは衣料品の動きも停滞、雑貨大型店が軒並み客数を落とし苦戦したことから前年並みの推移となった。月末にかけては冬衣料の販売を強化し客単価をあげて売り上げにつなげていきたい」(各種商品小売業)など、さまざまなコメントが寄せられた。

◎売上不振

各業種から、「売上、入店客数ともに厳しいスタートであった」(百貨店)、「エコカー補助金が終了して新車販売が厳しくなった」(自動車小売業)、「記録づくめの猛暑にはまりガス消費量が大幅ダウン。したがって売り上げもダウン。それが10月まで尾を引いている」(燃料小売業)など、さまざまな声が上がってきた。

◎円高の影響

各業種から、「宿泊は国体に期待していたが、選手応援者を含め期待外れ。宴会は平日の企業の会議セミナーの減少、土日の個人宴会に集中する。円高により昨年対で外国人客が若干減少」(ホテル)、「温浴施設のボイラーは都市ガスを利用しているので円高効果で価格が下がるのを期待している」(公衆浴場業)などのコメントがあった。

	全産業	建設	製造	卸･小売	サービス
5月	▲ 43.0	▲ 33.3	▲ 12.5	▲ 62.9	▲ 50.0
6月	▲ 42.6	▲ 46.1	±0.0	▲ 65.5	▲ 33.3
7月	▲ 30.0	▲ 42.8	△ 18.7	▲ 51.8	▲ 30.7
8月	▲ 38.0	▲ 50.0	△ 21.4	▲ 58.6	▲ 42.8
9月	▲ 44.7	▲ 33.3	▲ 6.6	▲ 72.0	▲ 50.0
10月	▲ 40.7	▲ 40.0	±0.0	▲ 56.6	▲ 53.3
見通し	▲ 34.2	▲ 26.6	▲ 37.5	▲ 36.6	▲ 33.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成22年10月の業況についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.7(前月水準▲44.7)となり、マイナス幅が△4.0ポイント縮小した。

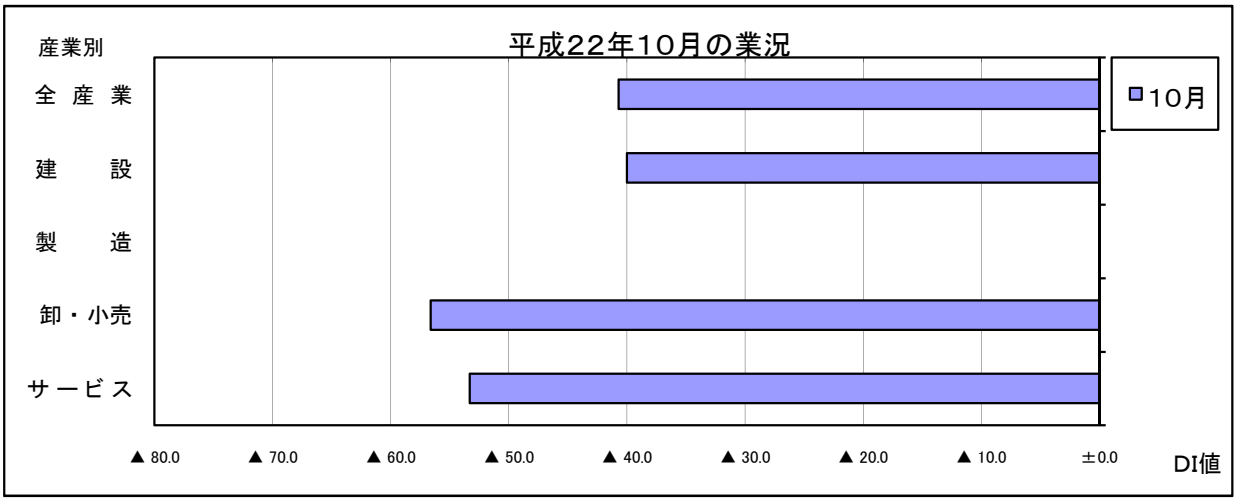
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲56.6(同▲72.0)、製造業±0.0(同▲6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲40.0(同▲33.3)、サービス業▲53.3(同▲50.0)である。

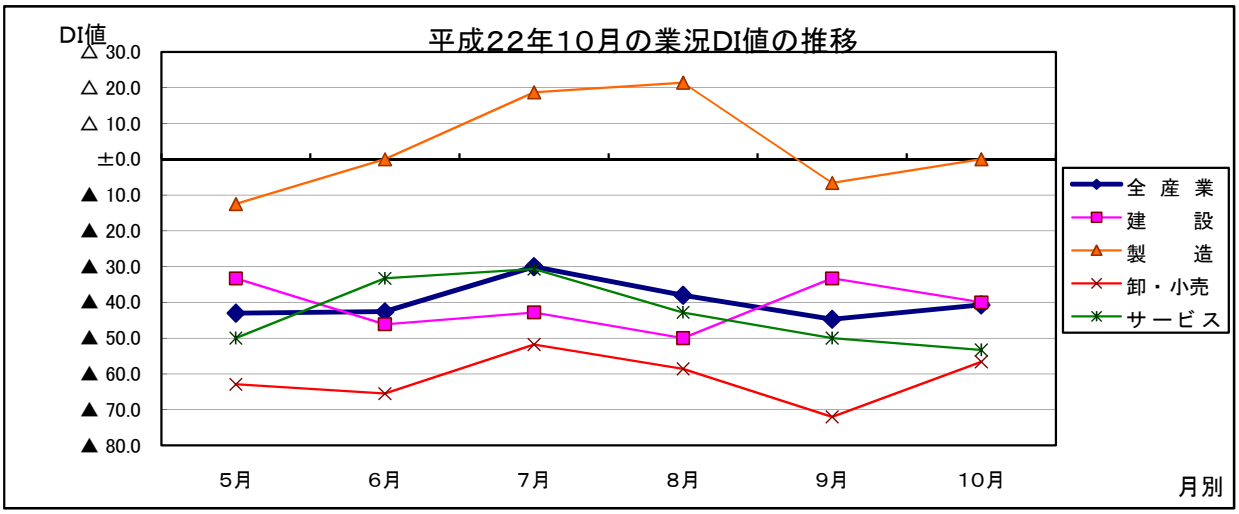
○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲34.2(前月水準▲31.3)となり、マイナス幅が▲2.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲33.3(同▲41.6)である。変らない見通しの業種は、建設業▲26.6(同▲26.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲37.5(同▲26.6)、卸小売業▲36.6(同▲32.0)である。

平成22年10月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成22年5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月 (10月～12月)
全産業	▲ 43.0	▲ 42.6	▲ 30.0	▲ 38.0	▲ 44.7	▲ 40.7	▲ 34.2 (▲ 31.3)
建設	▲ 33.3	▲ 46.1	▲ 42.8	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 40.0	▲ 26.6 (▲ 26.6)
製造	▲ 12.5	±0.0	△ 18.7	△ 21.4	▲ 6.6	±0.0	▲ 37.5 (▲ 26.6)
卸・小売	▲ 62.9	▲ 65.5	▲ 51.8	▲ 58.6	▲ 72.0	▲ 56.6	▲ 36.6 (▲ 32.0)
サービス	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 30.7	▲ 42.8	▲ 50.0	▲ 53.3	▲ 33.3 (▲ 41.6)





【平成22年10月の売上についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.0(前月水準▲38.8)となり、マイナス幅が△17.8ポイント縮小した。

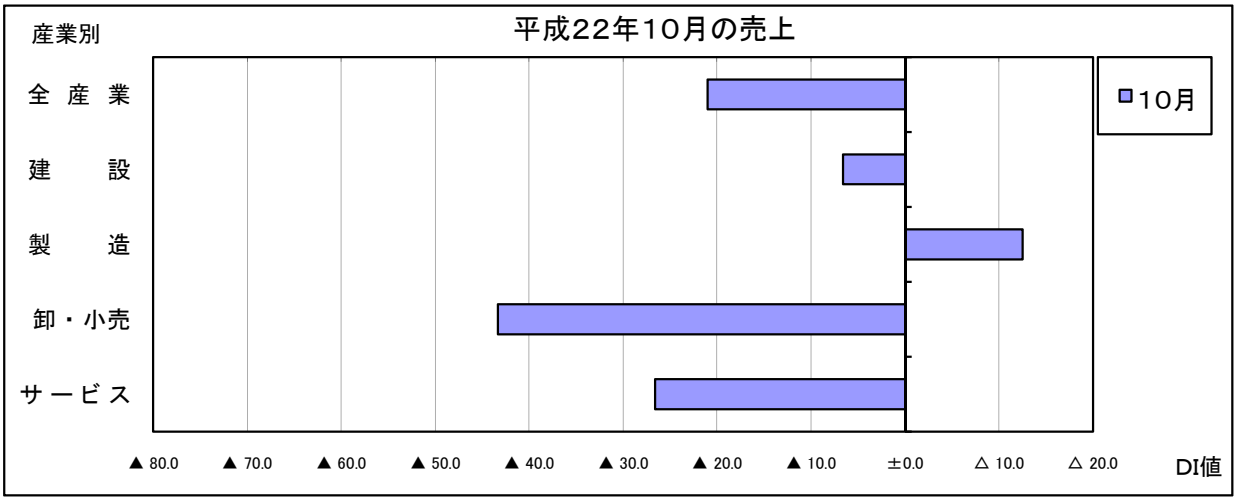
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲43.3(同▲76.0)、建設業▲6.6(同▲26.6)、サービス業▲26.6(同▲41.6)、である。特に、卸小売業はマイナス幅が△32.7ポイントと大幅に縮小した。プラス幅が縮小した業種は、製造業△12.5(同△13.3)である。

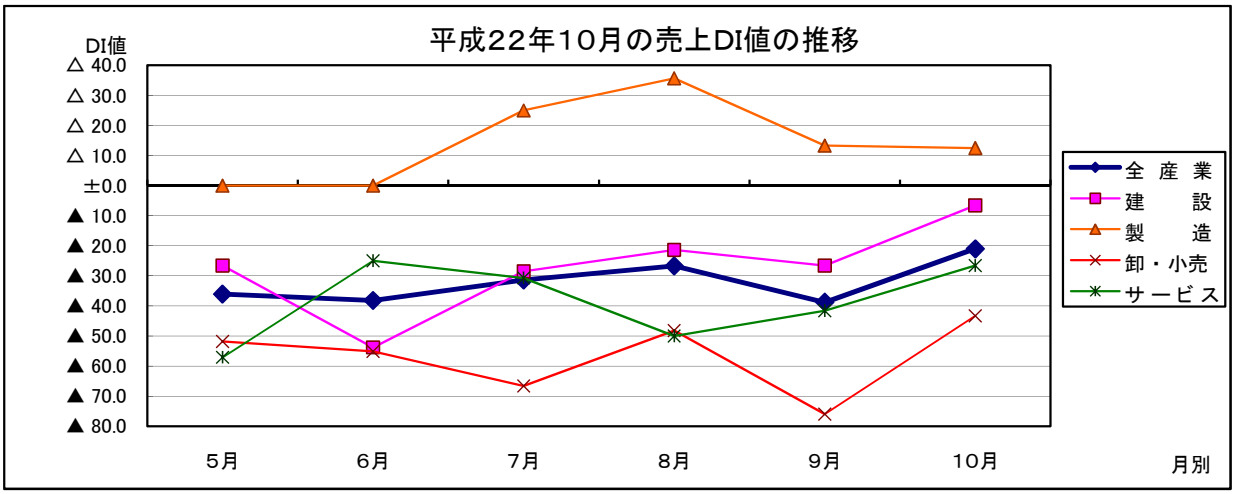
○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.0(前月水準▲26.8)となり、マイナス幅が△1.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同▲33.3)、建設業▲20.0(同▲40.0)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△26.7ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲43.7(同▲26.6)、卸小売業▲26.6(同▲16.0)である。

平成22年10月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成22年5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月 (10月～12月)
全産業	▲ 36.1	▲ 38.2	▲ 31.4	▲ 26.7	▲ 38.8	▲ 21.0	▲ 25.0 (▲ 26.8)
建設	▲ 26.6	▲ 53.8	▲ 28.5	▲ 21.4	▲ 26.6	▲ 6.6	▲ 20.0 (▲ 40.0)
製造	±0.0	±0.0	△ 25.0	△ 35.7	△ 13.3	△ 12.5	▲ 43.7 (▲ 26.6)
卸・小売	▲ 51.8	▲ 55.1	▲ 66.6	▲ 48.2	▲ 76.0	▲ 43.3	▲ 26.6 (▲ 16.0)
サービス	▲ 57.1	▲ 25.0	▲ 30.7	▲ 50.0	▲ 41.6	▲ 26.6	▲ 6.6 (▲ 33.3)





【平成22年10月の採算についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.8(前月水準▲47.7)となり、マイナス幅が△14.9ポイント縮小した。

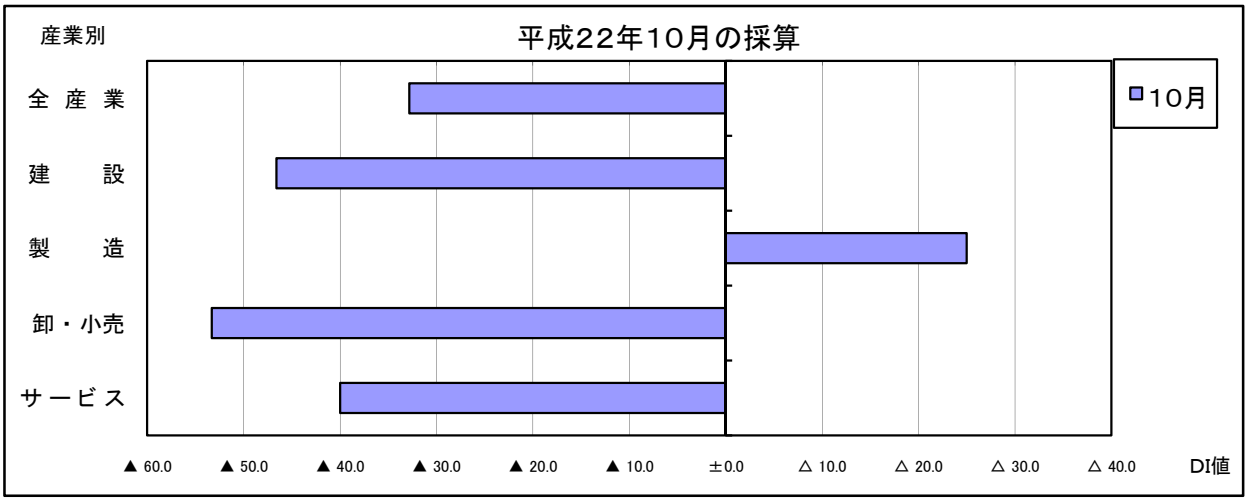
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△25.0(同△6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲46.6(同▲66.6)、卸小売業▲53.3(同▲72.0)、サービス業▲40.0(同▲41.6)であり、特に、建設業はマイナス幅が△20.0ポイントと大幅に縮小した。

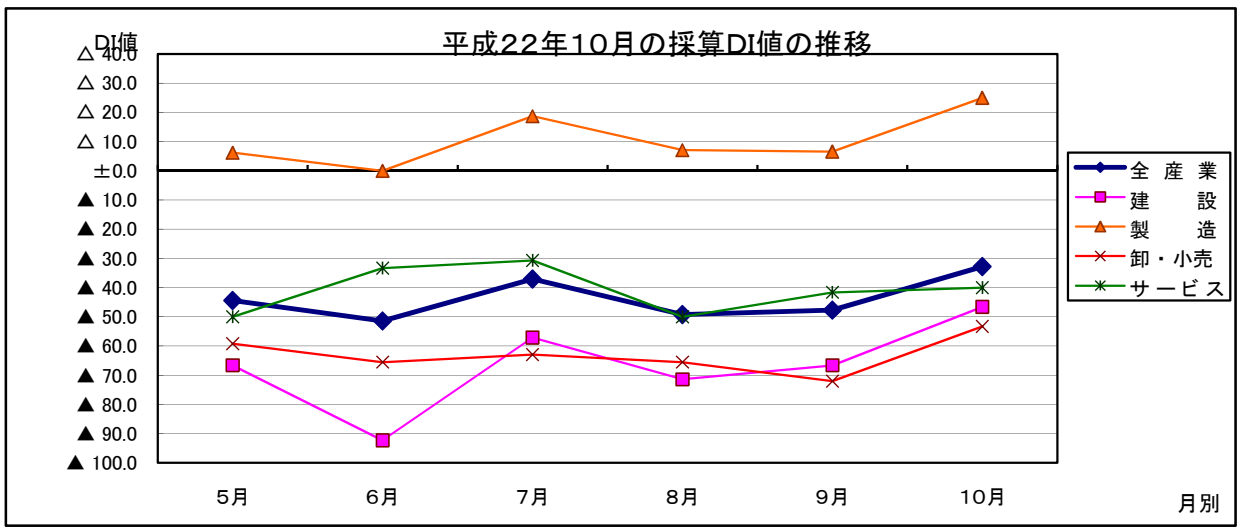
○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲36.8(前月水準▲37.3)となり、マイナス幅が△0.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲26.6(同▲46.6)、サービス業▲26.6(同▲33.3)である。特に、建設業はマイナス幅が△20.0ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲43.7(同▲26.6)、卸小売業▲43.3(同▲40.0)である。

平成22年10月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成22年5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月 (10月～12月)
全産業	▲ 44.4	▲ 51.4	▲ 37.1	▲ 49.2	▲ 47.7	▲ 32.8	▲ 36.8 (▲ 37.3)
建設	▲ 66.6	▲ 92.3	▲ 57.1	▲ 71.4	▲ 66.6	▲ 46.6	▲ 26.6 (▲ 46.6)
製造	△ 6.2	±0.0	△ 18.7	△ 7.1	△ 6.6	△ 25.0	▲ 43.7 (▲ 26.6)
卸・小売	▲ 59.2	▲ 65.5	▲ 62.9	▲ 65.5	▲ 72.0	▲ 53.3	▲ 43.3 (▲ 40.0)
サービス	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 30.7	▲ 50.0	▲ 41.6	▲ 40.0	▲ 26.6 (▲ 33.3)





【平成22年10月の仕入単価についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.6(前月水準▲23.8)となり、マイナス幅が△0.2ポイント縮小した。

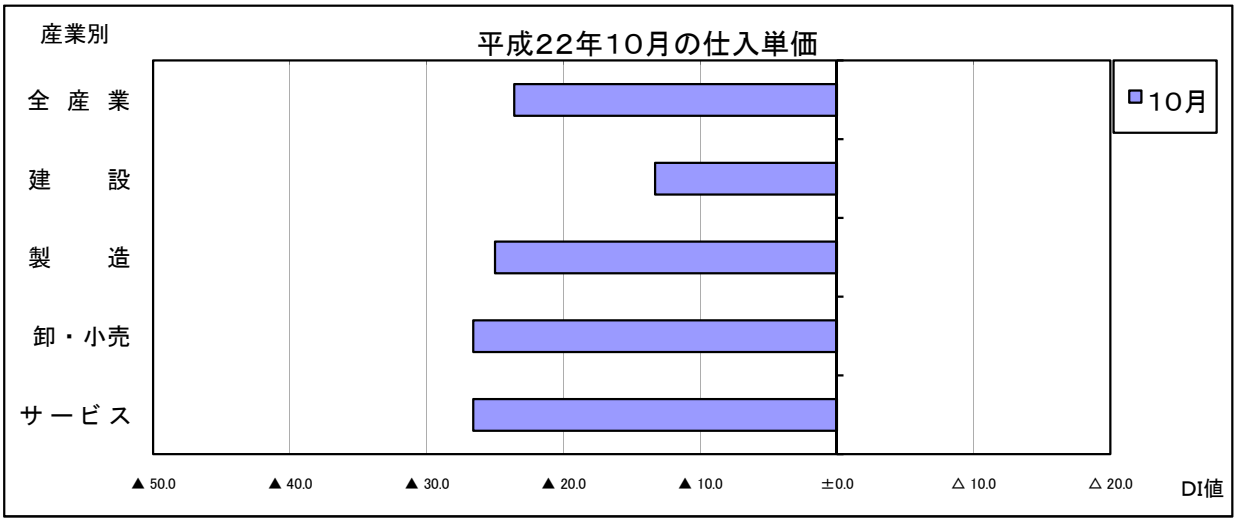
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲13.3(同▲33.3)、製造業▲25.0(同▲26.6)である。特に、建設業はマイナス幅が△20.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲26.6(同▲16.6)、卸小売業▲26.6(同▲±20.0)である。

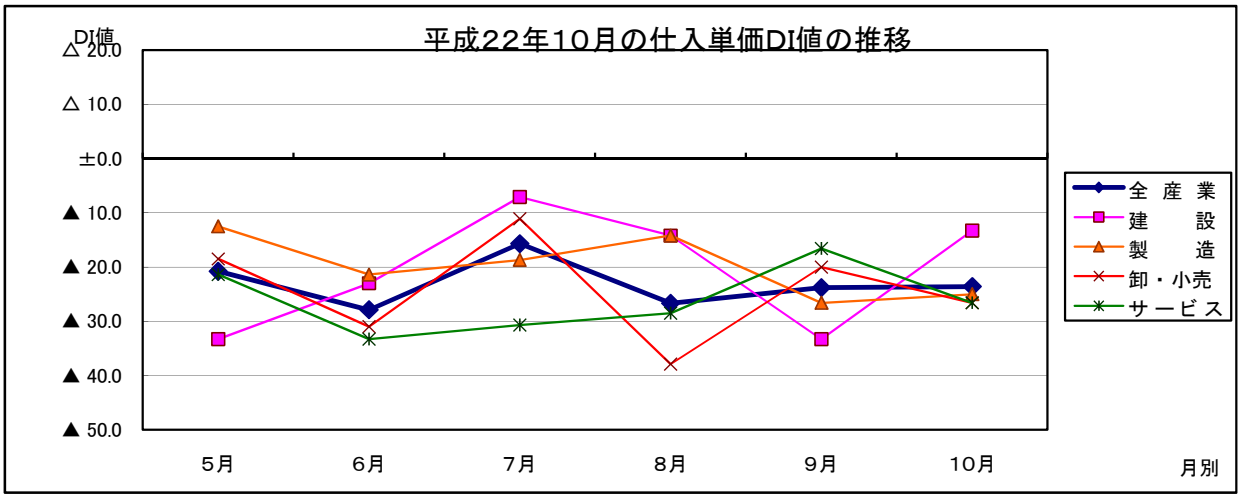
○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.0(前月水準▲25.3)となり、マイナス幅が△4.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲20.0(同▲32.0)、製造業▲25.0(同▲26.6)である。変らない見通しの業種は、建設業▲20.0(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲20.0(同▲16.6)である。

平成22年10月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成22年5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月 (10月～12月)
全産業	▲ 20.8	▲ 27.9	▲ 15.7	▲ 26.7	▲ 23.8	▲ 23.6	▲ 21.0 (▲ 25.3)
建設	▲ 33.3	▲ 23.0	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 33.3	▲ 13.3	▲ 20.0 (▲ 20.0)
製造	▲ 12.5	▲ 21.4	▲ 18.7	▲ 14.2	▲ 26.6	▲ 25.0	▲ 25.0 (▲ 26.6)
卸・小売	▲ 18.5	▲ 31.0	▲ 11.1	▲ 37.9	▲ 20.0	▲ 26.6	▲ 20.0 (▲ 32.0)
サービス	▲ 21.4	▲ 33.3	▲ 30.7	▲ 28.5	▲ 16.6	▲ 26.6	▲ 20.0 (▲ 16.6)





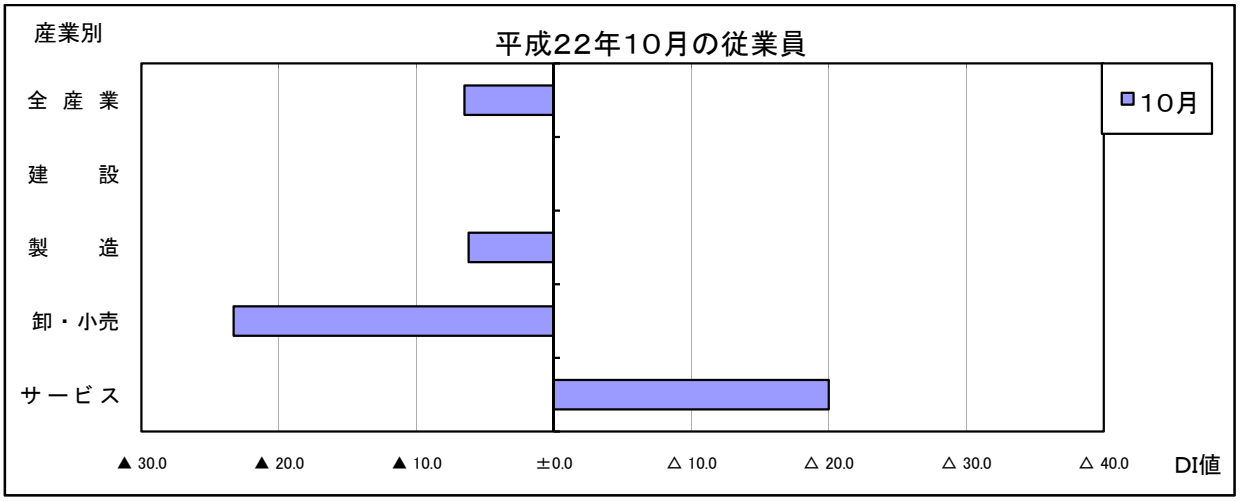
【平成22年10月の従業員についての状況】

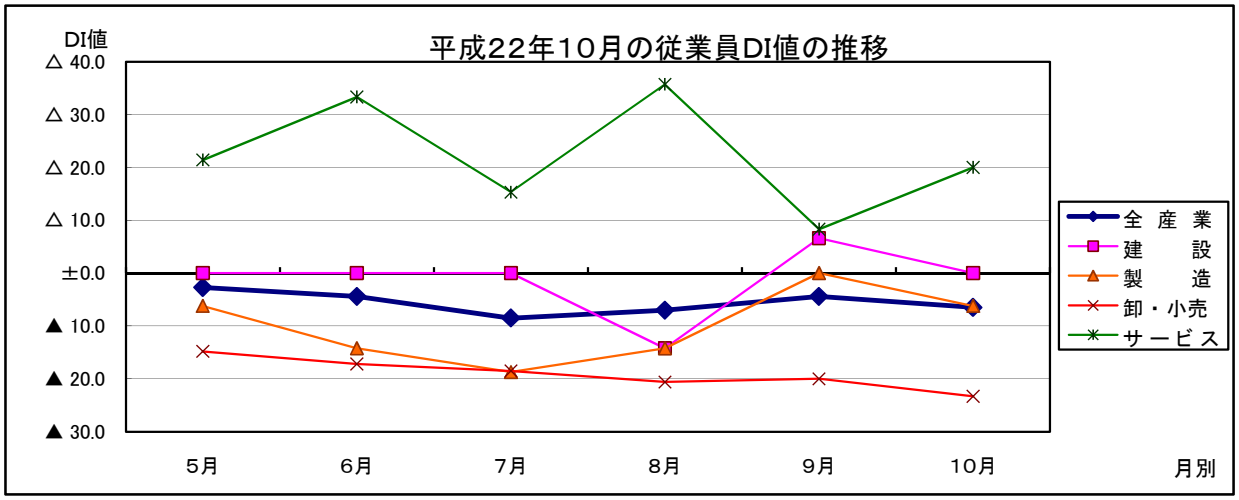
○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.5(前月水準▲4.4)となり、マイナス幅が▲2.1ポイント拡大した。
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△20.0(同△8.3)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同△6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲23.3(同▲20.0)、製造業▲6.2(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.2(前月水準▲7.4)となり、マイナス幅が▲1.8ポイント拡大する見通しである。
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△20.0(同△8.3)である。変らない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲20.0(同▲12.0)、製造業▲25.0(同▲20.0)である。

平成22年10月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成22年5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月 (10月～12月)
全産業	▲ 2.7	▲ 4.4	▲ 8.5	▲ 7.0	▲ 4.4	▲ 6.5	▲ 9.2 (▲ 7.4)
建設	±0.0	±0.0	±0.0	▲ 14.2	△ 6.6	±0.0	±0.0 (±0.0)
製造	▲ 6.2	▲ 14.2	▲ 18.7	▲ 14.2	±0.0	▲ 6.2	▲ 25.0 (▲ 20.0)
卸・小売	▲ 14.8	▲ 17.2	▲ 18.5	▲ 20.6	▲ 20.0	▲ 23.3	▲ 20.0 (▲ 12.0)
サービス	△ 21.4	△ 33.3	△ 15.3	△ 35.7	△ 8.3	△ 20.0	△ 20.0 (△ 8.3)





【平成22年10月の資金繰りについての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.3(前月水準▲25.3)となり、マイナス幅が△3.0ポイント縮小した。

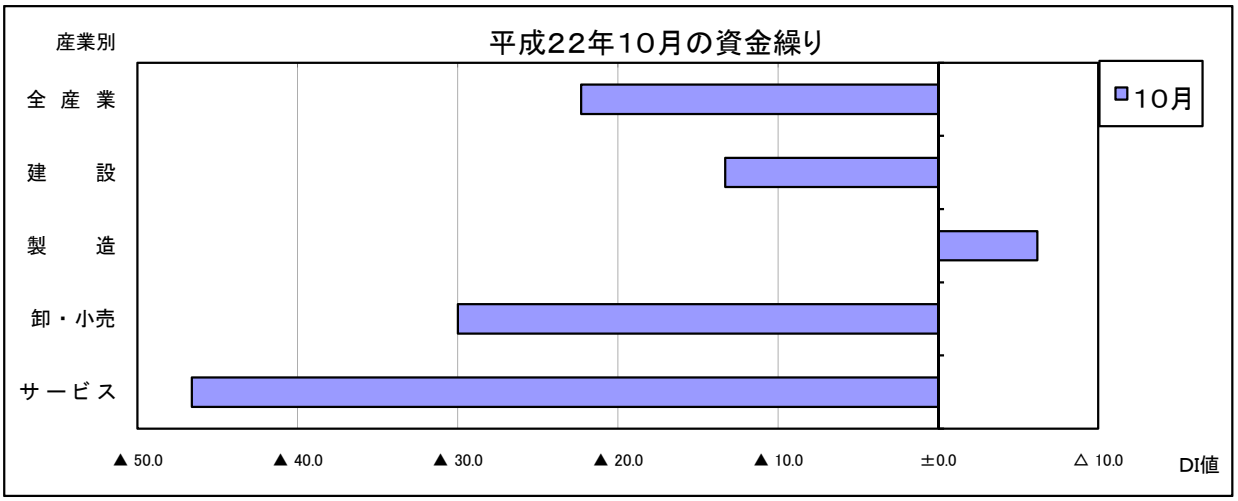
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲13.3(同▲26.6)、卸小売業▲30.0(同▲40.0)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業△6.2(同△6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲46.6(同▲33.3)である。

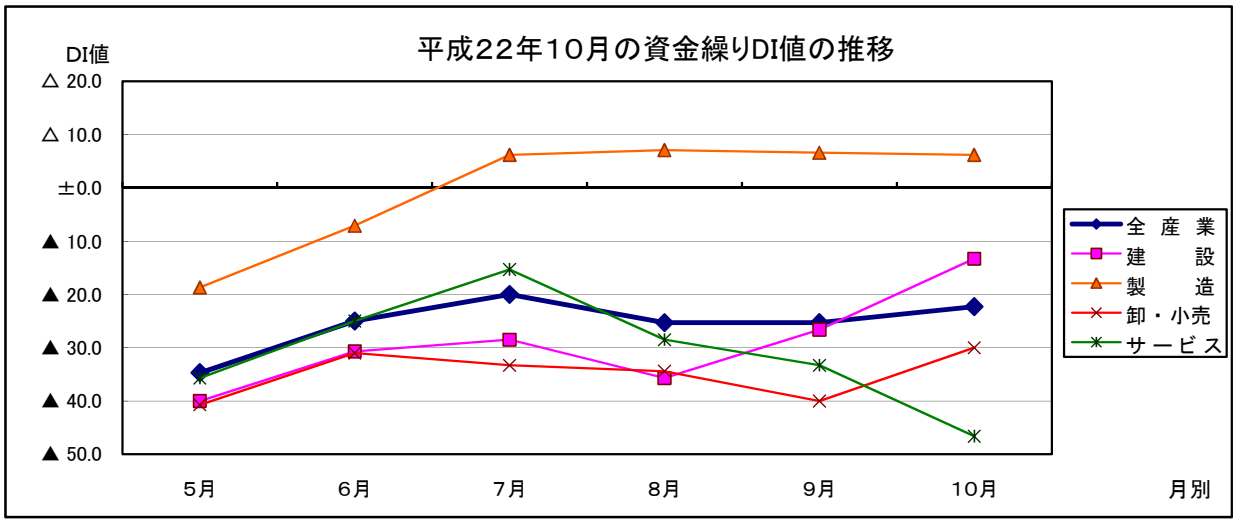
○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.3(前月水準▲25.3)となり、マイナス幅が△3.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲33.3(同▲41.6)である。変らない見通しの業種は、建設業▲13.3(同▲13.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲31.2(同▲20.0)、卸小売業▲26.6(同▲20.0)である。

平成22年10月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成22年5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月 (10月～12月)
全産業	▲ 34.7	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 25.3	▲ 25.3	▲ 22.3	▲ 26.3 (▲ 22.3)
建設	▲ 40.0	▲ 30.7	▲ 28.5	▲ 35.7	▲ 26.6	▲ 13.3	▲ 13.3 (▲ 13.3)
製造	▲ 18.7	▲ 7.1	△ 6.2	△ 7.1	△ 6.6	△ 6.2	▲ 31.2 (▲ 20.0)
卸・小売	▲ 40.7	▲ 31.0	▲ 33.3	▲ 34.4	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 26.6 (▲ 20.0)
サービス	▲ 35.7	▲ 25.0	▲ 15.3	▲ 28.5	▲ 33.3	▲ 46.6	▲ 33.3 (▲ 41.6)





【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全　業　種	▲ 21.0	▲ 25.0	▲ 32.8	▲ 36.8	▲ 23.6	▲ 21.0	▲ 6.5	▲ 9.2
建　　設	▲ 6.6	▲ 20.0	▲ 46.6	▲ 26.6	▲ 13.3	▲ 20.0	±0.0	±0.0
製　　造	△ 12.5	▲ 43.7	△ 25.0	▲ 43.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 6.2	▲ 25.0
卸・小売	▲ 43.3	▲ 26.6	▲ 53.3	▲ 43.3	▲ 26.6	▲ 20.0	▲ 23.3	▲ 20.0
サービス	▲ 26.6	▲ 6.6	▲ 40.0	▲ 26.6	▲ 26.6	▲ 20.0	△ 20.0	△ 20.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全　業　種	▲ 40.7	▲ 34.2	▲ 22.3	▲ 26.3
建　　設	▲ 40.0	▲ 26.6	▲ 13.3	▲ 13.3
製　　造	±0.0	▲ 37.5	△ 6.2	▲ 31.2
卸・小売	▲ 56.6	▲ 36.6	▲ 30.0	▲ 26.6
サービス	▲ 53.3	▲ 33.3	▲ 46.6	▲ 33.3

【平成22年10月の業種別業界内トピックス】

産業別	概　　況	キーワード	業種
建設	公共工事入札では最低制限価格や低入札価格で応札する業者がいるため、工事費を積算して会社経営を含めた価格で入札しても落札できない状態が続いている。	公共工事価格競争 落札困難	土木工事業（舗装、しゅんせつを除く）
	このまま年を越せるのでしょうか	先行き不安	土木工事業（舗装、しゅんせつを除く）
	売上高はわずかに増加。しかし仕入以外の経費が多く利益が圧迫されている。相変らず予算も厳しい	経費圧迫 売り上げ微増 利益圧迫	電気工事業
製造	低価格がますます進行するであろうと考えられる	低価格化の進行	一般産業用機械設備製造業
	依然として景気が改善してきているという実感が持てない。良い話も聞こえてこない	景気回復実感なし	その他の機械・同部分品製造業
卸小売	長引く業況の悪化に伴い、給与削減する会社が出てきました	業況の悪化 給与削減	食料・飲料卸売業
	売上、入店客数ともに厳しいスタートであったが、月末にむけて気温の低下が功を奏し前年実績を結果的には上回る状況で推移した	売上不振 冬物商戦好調	百貨店
	夏の猛暑の影響から野菜果実ともに入荷が減少し高値が続いています。今後は気候が平均並みとなり野菜の成長が進むことから入荷が増え安定的価格に落ち着く傾向もあります。全体的市場情勢は売上減少の厳しい状況です。	猛暑の影響 青果物入荷減	食料・飲料卸売業
	たばこ税値上げの前の買いおき需要があり売り上げ上昇したが、その後はその反動で減少している。	たばこ税 買い置き需要 売り上げ増加 反動の減少	その他の各種商品小売業（従業者が常時50人未満のもの）
	近隣に大型店がオープンするため注意している。季節感がなく商品の売り込みが難しい。客単価も低い。冬物の売れ行きはすべりだし好調。	大型店 季節感 客単価低調 冬物商戦好調	その他の飲食料品小売業
	エコカー補助金が終了して新車販売が厳しくなった	エコカー補助金終了 売上不振	自動車小売業
	記録づくめの猛暑にはまりガス消費量が大幅ダウン。したがって売り上げもダウン。それが10月まで尾を引いている。	猛暑の影響 売り上げ不振	燃料小売業（ガソリンスタンド含まず）
	商品が秋冬物に変わったが、商品単価の下落傾向は収まらず、低価格商品しか売れていない	秋冬物商戦 商品単価の下落 低価格商品	その他の各種商品小売業（従業者が常時50人未満のもの）
	10月度は先月後半からようやく秋らしい気温になったことから月初は秋冬商材が本格的に動き出したことから売り上げ高は前年を上回る推移となった。また、先月29日から開催した秋のグルメフェアで飲食店が客単価をあげ、全体の底上げにつながった。中旬気温が低下してからは衣料品の動きも停滞、雑貨大型店が軒並み客数を落とし苦戦したことから前年並みの推移となった。月末にかけては冬衣料の販売を強化し客単価をあげて売り上げにつなげていきたい。	秋冬物商戦 イベント好調 冬物衣料強化	各種商品小売業
ｻｰﾋﾞｽ	宿泊は国体に期待していたが、選手応援者を含め期待外れ。宴会は平日の企業の会議セミナーの減少、土日の個人宴会に集中する。円高により昨年対で外国人客が若干減少。	国体への期待 宿泊不振 企業利用減少 円高の影響 外国人客減少	ホテル
	温浴施設のボイラーは都市ガスを利用しているので円高効果で価格が下がるのを期待している	円高の期待	公衆浴場業

◎秋冬物商戦

・ 近隣に大型店がオープンするため注意している。季節感がなく商品の売り込みが難しい。客単価も低い。冬物の売れ行きはすべりだし好調。	その他の飲食料品小売業
・ 商品が秋冬物に変わったが、商品単価の下落傾向は収まらず、低価格商品しか売れていない	その他の各種商品小売業
・ 10月度は先月後半からようやく秋らしい気温になったことから月初は秋冬商材が本格的に動き出したことから売り上げ高は前年を上回る推移となった。また、先月29日から開催した秋のグルメフェアで飲食店が客単価をあげ、全体の底上げにつながった。中旬気温が低下してからは衣料品の動きも停滞、雑貨大型店が軒並み客数を落とし苦戦したことから前年並みの推移となった。月末にかけては冬衣料の販売を強化し客単価をあげて売り上げに	各種商品小売業

◎売上不振

・ 売上、入店客数ともに厳しいスタートであった	百貨店
・ エコカー補助金が終了して新車販売が厳しくなった	自動車小売業
・ 記録づくめの猛暑にはまりガス消費量が大幅ダウン。したがって売り上げもダウン。それが10月まで尾を引いている。	燃料小売業

◎円高の影響

・ 宿泊は国体に期待していたが、選手応援者を含め期待外れ。宴会は平日の企業の会議セミナーの減少、土日の個人宴会に集中する。円高により昨年対で外国人客が若干減少。	ホテル
・ 温浴施設のボイラーは都市ガスを利用しているので円高効果で価格が下がるのを期待している	公衆浴場業

平成２２年１０月のＣＣＩ－ＬＯＢＯとの比較

【業況ＤＩ】 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.7に対し、「CCI-LOBO」が▲40.5で、柏の方がマイナス幅が0.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。

【売上ＤＩ】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.0に対し、「CCI-LOBO」が▲32.9で、柏の方がマイナス幅が11.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業でいずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。

【採算ＤＩ】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.8に対し、「CCI-LOBO」が▲37.5で、柏のほうがマイナス幅が4.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業で製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で10ポイント以上悪い。

【仕入単価ＤＩ】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.6に対し、「CCI-LOBO」が▲17.6で、柏の方がマイナス幅が6.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。

【従業員ＤＩ】 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.5に対し、「CCI-LOBO」が▲11.6で、柏の方がマイナス幅5.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業で、建設業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。

【資金繰りＤＩ】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.3に対し、「CCI-LOBO」が▲27.8で、柏の方がマイナス幅が5.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、サービス業で、サービス業は10ポイント以上悪い。

平成２２年１０月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI－LOBOとの比較

景気天気図	特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
	DI≧50	50＞DI≧25	25＞DI≧0	0＞DI≧▲25	▲25＞DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 40.7	▲ 40.0	±0.0	▲ 56.6	▲ 53.3
CCI―LOBO	▲ 40.5	▲ 54.4	▲ 23.3	▲ 45.6	▲ 46.7

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 21.0	▲ 6.6	△ 12.5	▲ 43.3	▲ 26.6
CCI―LOBO	▲ 32.9	▲ 46.3	▲ 16.3	▲ 36.5	▲ 40.5

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 32.8	▲ 46.6	△ 25.0	▲ 53.3	▲ 40.0
CCI―LOBO	▲ 37.5	▲ 51.9	▲ 24.7	▲ 37.9	▲ 46.1

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 23.6	▲ 13.3	▲ 25.0	▲ 26.6	▲ 26.6
CCI―LOBO	▲ 17.6	▲ 21.1	▲ 21.2	▲ 4.7	▲ 27.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 6.5	±0.0	▲ 6.2	▲ 23.3	△ 20.0
CCI―LOBO	▲ 11.6	▲ 22.5	▲ 12.8	▲ 5.7	▲ 10.1

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 22.3	▲ 13.3	△ 6.2	▲ 30.0	▲ 46.6
CCI―LOBO	▲ 27.8	▲ 40.3	▲ 22.6	▲ 28.9	▲ 28.2

□ は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

■ は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

（１０月の調査結果のポイント）

調査期間：平成２２年１０月２０日～２５日

調査対象：柏市内１０７事業所及び組合にヒアリング、回答数７６

柏市の業況

業況ＤＩわずかに回復

全国と同水準

１０月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲４０．７(前月水準▲４４．７)となり、マイナス幅が△４．０ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲５６．６(同▲７２．０)、製造業±０．０(同▲６．６)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲４０．０(同▲３３．３)、サービス業▲５３．３(同▲５０．０)である。

柏の景気情報・産業別業況ＤＩ

	全産業	建設	製造	卸･小売	ｻｰﾋﾞｽ
５月	▲ 43.0	▲ 33.3	▲ 12.5	▲ 62.9	▲ 50.0
６月	▲ 42.6	▲ 46.1	0.0	▲ 65.5	▲ 33.3
７月	▲ 30.0	▲ 42.8	18.7	▲ 51.8	▲ 30.7
８月	▲ 38.0	▲ 50.0	21.4	▲ 58.6	▲ 42.8
９月	▲ 44.7	▲ 33.3	▲ 6.6	▲ 72.0	▲ 50.0
１０月	▲ 40.7	▲ 40.0	0.0	▲ 56.6	▲ 53.3
見通し	▲ 34.2	▲ 26.6	▲ 37.5	▲ 36.6	▲ 33.3

「見通し」は今月の水準と比較した向こう３ヶ月の先行き見通しＤＩ

【建設業】からは、「公共工事入札では最低制限価格や低入札価格で応札する業者がいるため、工事費を積算して会社経営を含めた価格で入札しても落札できない状態が続いている」（土木工事業）、「このまま年を越せるのでしょうか」（土木工事業）、「売上高はわずかに増加。しかし仕入以外の経費が多く利益が圧迫されている。相変らず予算も厳しい」（電気工事業）などの声が寄せられた。

【製造業】からは、「低価格がますます進行するであろうと考えられる」（一般産業用機械設備製造業）、「依然として景気が改善してきているという実感が持てない。良い話も聞こえてこない」（その他の機械・同部分品製造業）という意見が寄せられた。

【卸小売業】からは、「引く業況の悪化に伴い、給与削減する会社が出てきました」（食料・飲料卸売業）、「夏の猛暑の影響から野菜果実ともに入荷が減少し高値が続いています。今後は気候が平均並みとなり野菜の成長が進むことから入荷が増え安定的価格に落ち着く傾向もあります。全体的市場情勢は売上減少の厳しい状況です」（食料・飲料卸売業）、「たばこ税値上げの前の買いおき需要があり売り上げ上昇したが、その後はその反動で減少している」（その他の各種商品小売業）、といった内容のコメントが上がってきた。

１０月の景気キーワード

◎秋冬物商戦

各業種から、「近隣に大型店がオープンするため注意している。季節感がなく商品の売り込みが難しい。客単価も低い。冬物の売れ行きはすべりだし好調」（その他の飲食料品小売業）、「商品が秋冬物に変わったが、商品単価の下落傾向は収まらず、低価格商品しか売れていない」（その他の各種商品小売業）、「１０月度は先月後半からようやく秋らしい気温になったことから月初は秋冬商材が本格的に動き出したことから売上高は前年を上回る推移となった。また、月末から開催した秋のフェアで飲食店が客単価をあげ、全体の底上げにつながった。中旬気温が低下してからは衣料品の動きも停滞、雑貨大型店が軒並み客数を落とし苦戦したことから前年並みの推移となった。月末にかけては冬衣料の販売を強化し客単価をあげて売り上げにつなげていきたい」（各種商品小売業）など、さまざまなコメントが寄せられた。

◎売上不振

各業種から、「売上、入店客数ともに厳しいスタートであった」（百貨店）、「エコカー補助金が終了して新車販売が厳しくなった」（自動車小売業）、「記録づくめの猛暑にはまりガス消費量が大幅ダウン。したがって売り上げもダウン。それが１０月まで尾を引いている」（燃料小売業）など、さまざまな声が上がってきた。

◎円高の影響

各業種から、「宿泊は国体に期待していたが、選手応援者を含め期待外れ。宴会は平日の企業の会議セミナーの減少、土日の個人宴会に集中する。円高により昨年対で外国人客が若干減少」（ホテル）、「温浴施設のボイラーは都市ガスを利用しているので円高効果で価格が下がるのを期待している」（公衆浴場業）などのコメントがあった。

ＣＣＩ･ＬＯＢＯとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲４０．７に対し、「ＣＣＩ･ＬＯＢＯ」が▲４０．５で、柏の方がマイナス幅が０．２ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、いずれも１０ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業で、卸小売業は１０ポイント以上悪い。

ＣＣＩ－ＬＯＢＯ

商工会議所早期景気観測（10月速報）

調査期間：平成22年10月18日～22日

調査対象：全国の408商工会議所が2678業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況ＤＩは足踏み、先行き懸念は一層強まる

１０月の全産業合計の業況ＤＩは▲４０．５（前月比＋０．３ポイント）と、前月（▲４０．８）からほぼ横ばいで推移した。業況は、６月以降、持ち直しの動きに陰りが出ていたが、ここにきて停滞感が一層強まっている。特に、円高の長期化が、輸出や受注の減少、親企業の海外移転加速による仕事の減少、コストダウン要請など、企業経営に悪影響を及ぼしている。また、競争激化に伴う低価格での受注や、消費者の節約志向を意識した値下げ競争により、依然として収益確保は難しい状況が続いている。

先行きについては、▲４０．６（前月比▲１．６ポイント）と、３カ月連続でマイナス幅が拡大した。特に、製造業は、受注競争の激化、エコカー補助金終了による自動車生産・販売の落ち込みなどから、大幅に悪化する見通し。加えて、円高の長期化による企業収益の悪化や消費意欲の減退、最低賃金の大幅な引上げなどが懸念材料になっており、年末にかけて、倒産の増加や景気の腰折れが憂慮される。

【建設業】「公共・民間工事とも減少し、少ない受注を巡って価格競争が激化」（一般土木建築工事業）、「本年度上期で公共工事の発注は８割強が終了し、年末に向けて仕事量の減少が心配」（一般土木建築工事業）、「受注単価、販売価格とも低迷し、業況改善の兆しは感じられない」（電気工事業）

【製造業】「円高の影響で親会社の収益が減少しており、下請けである当社へのコストダウン要請が来るのはほぼ確実」（ブリキ缶等製品製造業）、「円高の影響で北米向けの輸出が減少」（建設・鉱山機械製造業）、「最低賃金が１３円も上がり、採算が悪化」（水産食料品製造業）

【卸売業】「花の仕入価格が上昇しているが、売上高を確保するため販売価格に転嫁できず、業況の改善に結びつかない」（農畜産・水産物卸売業）、「円高により、果物の輸出が伸び悩んでいる」（農畜産・水産物卸売業）、「野菜の価格が高止まりしているが、気候が安定してきたこともあり、売上は持ち直している」（食料・飲料卸売業）

【小売業】「１２月からエコポイントの付与が半減されるため、駆け込み需要が発生し、一時的に売上が増加」（機械器具小売業）、「気温が下がり、秋物衣料の売上に動きが見られる」（百貨店）、「仕入価格が低下しておらず、円高のメリットが全く感じられない」（商店街）

【サービス業】円高による製造業各社の売上減や海外進出の影響で、輸送需要が減退」（運送業）、「野菜類の仕入価格が高騰している一方、売上の減少を懸念して販売価格を値上げすることができず、採算が悪化」（その他の一般飲食店）、「企業の経営環境が厳しくなる中、ソフトウェアに投資する余裕のない企業が増加し、売上が落ち込んでいる」（ソフトウェア業）

１０月のキーワード

○円高の悪影響

製造業を中心に、円高の長期化によって輸出や受注が減少するなど、企業経営に悪影響が及んでいるとの声が多い。

円高が続いている影響で、欧米へのティーポットの輸出が対前年比で４割に激減（奥州・鉄素形材製造業）、このまま円高が続けば、取引先の海外移転の動きが加速し、経営に重大な影響が及ぶ見通し（東京・ブリキ缶等製品製造業）、円高の影響で、外国旅行客の消費や宿泊が減少（小田原箱根・旅館）

○厳しい雇用情勢

円高の長期化など先行き不透明感が強まっていることから、従業員の一部削減や新規採用の抑制など、厳しい雇用情勢を訴える声が多い。

円高の影響で、年末にかけて受注の減少が予想されるため、従業員の一時帰休を検討せざるを得ない状況（館山・金属加工機械製造業）、年末、年度末の仕事は確保できているが、先行き不透明感が強く、雇用や設備投資の拡大には慎重にならざるを得ない（帯広・農業用機械製造業）、競合店との競争が激しく、採算が悪化しており、従業員の一部削減を検討している（小牧・その他の小売業）

○消費マインドの更なる冷え込み

景気の低迷に伴う先行き不安から、消費者心理が悪化、収益に悪影響が及んでいるとの声が多い。

消費者心理が冷え込んでおり、食品関連の売上高および収益の確保が厳しい（静岡・各種商品卸売業）、円高・株安の影響で、消費の低迷に拍車がかかっている（豊橋・百貨店）、忘年会プランやおせち料理の販売を開始しているが、低価格商品を購入する傾向が鮮明になっている（札幌・旅館）

全国・産業別業況ＤＩの推移

	全産業	建　設	製　造	卸　売	小　売	ｻｰﾋﾞｽ
5月	▲39.7	▲55.3	▲25.4	▲34.6	▲46.0	▲39.5
6月	▲40.5	▲58.1	▲25.1	▲37.0	▲41.8	▲45.1
7月	▲39.7	▲58.0	▲20.6	▲33.3	▲46.9	▲41.6
8月	▲37.7	▲56.1	▲20.0	▲35.4	▲43.9	▲38.8
9月	▲36.4	▲48.9	▲24.7	▲30.1	▲37.4	▲41.5
１０月	▲40.5	▲54.4	▲23.3	▲34.6	▲45.6	▲46.7
見通し	▲40.6	▲50.9	▲40.2	▲30.8	▲40.9	▲37.8

「見通し」は当月水準に比較した向こう３ヶ月の先行き見通しＤＩ